



「桜島のみなとつながる」を目指して

さくらじま便り

SAKURA
JIMA
DAYORI
第8号
2022年2月発行

表紙・小池町でのしめ縄作り

発行・編集 / さくらじま地域おこし協力隊
Photo・Editor / Akane Masudome
Design / Yurina Yamashita

一緒に本誌を作ってください方を募集しております。専用ポスト(桜島の支所・ターミナル3階)や公式LINEで感想も大募集中です。

| お問い合わせ先・感想 |

TEL 099-245-2550(増留)

MAIL a.masudome@sakurajima.gr.jp



「さくらじま便り」
公式ライン

気まぐれ配信中!
お気軽にネタメッ
セージください!!

挟み込みページ
さくらじま便り一周年
編集者からご挨拶

桜島ならではの!
カーブミラー清掃
三校合同
椿油の販売会

「特集」「せーの」の掛け声で
年に一度、小池町
のしめ縄作り

CONTENTS



しめ縄の作り方



4

崩れないように固くひねり、それぞれが持っている束を横の人に渡すことで、徐々に編まれていき、①～③を繰り返す。



3

1つに縛られたわらの束を上から垂らし、そこから3つに分けられた束の下から①をそれぞれにつぎ足すように入れ込んでいく。



2

束ねてある稲わらから、適量を取る(手元の感覚と目分量のみで行う熟練の技)。



1

少し湿気を与えた稲わらを、わら打ち(ここでは、“ワラツグロ”と呼ばれているそう)で叩いて柔らかくする。



8

7本のしめ縄が完成。縄を納める場所によって太さが異なる。



7

縄から飛び出ているわらの細かな部分を切り落とす。



6

さらに太い木の台の上に縄を置き、わら打ちで程よく叩き、さらにならす。



5

1本の縄になったものを、床に叩き付けることで、わらの状態をならしていく。



◀しめ縄交換時

真ん中が今回作ったしめ縄。左下が雨風にさらされたしめ縄。右下がひさしの下で濡れずにいた、去年のしめ縄。



年に一度、小池町のしめ縄作り

「せーの」の掛け声で世代を超えて



皆さんは、しめ縄作りを体験したり、見たりしたことはあるでしょうか。年末年始には、多くの場所で見かける「しめ縄」が、どのように作られているのか、覗いてみませんか？

十一月月上旬、小池町の公民館の倉庫にて、毎年恒例となっているしめ縄作りが行われました。現在島内でしめ縄を作っている地域は小池町のみとなっていて、この行事は歴代の

公民館長を中心に引き継がれているものです。今回参加したのは四十～八十歳台と幅広い年齢の九名で、朝から倉庫には、掛け声など、さまざまな音が響いていました。

稲わらは、水田のない桜島では手に入れることができないため、今回は吉田町から持ってきたそう、この一年に一回の行事をいかに大事にしているのか、ということがうかがえます。ちなみに、もち米の稲わらが、特に丈夫でしめ縄に適しているようです。もともとバラバラの稲わらを束ねる作業は結構な力もいり、皆さん「せーの!!」と息を合わせて、時には一息ついて一本一本束ねていくにはかなりの体力と力、そして根気のいる作業でしたが、こういったことを団結して行う、というのは今の時代なかなか貴重なことで、どこか楽しそうにも見えました。

十二月三日の大祭には、こうして出来上がったしめ縄七本が、桜洲小学校横の小池町の小鳥神社、そしてその境内にある学問の神様「天神様(菅原道真公)」が鎮座する菅原神社や地域の納骨堂に納められ、神事を経て、清めの紙垂(しで)を付けて、また新たな一年を迎える準備が整いました。

しめ縄作りの一部には、今回参加した最高齢八十九歳の有馬静雄さん(小池町在住)のみができる技もあり、より多くの地域の方に参加してもらおうことで、こういった行事を後世に伝えていくことに繋がるのかもしれない。今度神社のそばを通る際は、ぜひ手づくりのしめ縄をご覧ください！



桜島っ子からの
真心こもった
贈り物

椿油を購入してくれた
お客さんの接客中。
手慣れたものです！



地域の安全を守る
青パト隊！

三校合同 椿油の販売会



十二月十一日、黒神小学校・中学校、桜峰小学校の三校合同による、恒例の椿油の販売会が金生町の山形屋前にて行われました。朝十時からの販売開始前には、電車通りまで続く長い列ができ、販売が始まると多くの方が「お一人様最大五本まで」というその本数を購入するほど大人気！「愛用しています！」という毎年購入しているリピーターファンが多く、主に髪や肌に塗布して使用しているそうです。

この「椿油の販売」は、学校のカリキュラムの「総合的な学習の時間」の一環で、今回の椿油や桜島大根を育て、販売を行うという一連の流れを体験することで、児童・生徒たちは地場産業について学び、地域の身近な存在について学びを深めるそうです。

今年「表年」(実がたくさんなるという年)ということで、昨年に比べても、かなり多くの量を収穫できたそうです。今回は小瓶約五百本が準備されました。

毎年、この椿油の販売まで、椿畑の管理、種拾い、乾燥作業、油の瓶詰やラベル張りなどの一連の流れを児童・生徒自ら行うそうです。今年も先生方も一緒にみんなでの日のために頑張ったそうです。さらに、これまでの販売会の映像などを見て、接客のシミュレーションまで行ったということで、声を掛けて販売場所までお客さまを案内

桜島のカーブミラー、 気づけばキレイに： なっていますか？

十一月のある日曜日、朝から島内のカーブミラーを二人がかりで掃除する人々の姿が、あちらこちらで見られました。「これも地域活動の一つ？」と思いつきながら声をかけてみると、青パト隊の皆さんによるミラーの拭き掃除が行われているところでした。

降灰により、何かと定期的な掃除

が必要なのは桜島ですが、ついつい車の掃除など、身の回りのことに目が行きがちになることも多いかもしれません。このような活動が青パト隊の皆さんによって積極的に行われていることで、この地での暮らしの安全がより保たれていると知ると、とても心強いものです。

この「ミラー拭き」は、例年青パト隊の年間行事に含まれていて、島内にあるミラー全てを拭くそうです。次もまた十一月頃見かけることができるかもしれません。



する姿は大人顔負けでした！

黒神中学校に通うただ一人の生徒さんは、今回が七回目ということで、「しっかりと対応ができるよう、毎年、初めて販売をする気持ちで、この日を迎えるようにしています。来る人にいつも喜んでもらえるように」という気持ちで準備や販売をしています」とこの特別な日への想いを話してくれました。



青パト隊の皆さんお疲れさまでした。そして地域の安全を守っていただきありがとうございます！

御礼

「さくらじま便り」
発行から
一年が経ちました

2021年2月の「さくらじま便り」創刊から、早いもので一年が経ちました。桜島で暮らし始め、鹿児島市の中心地からフェリーで約15分の桜島。それまで遠くから「山(火山)」としての桜島を見て、ふるさとのすばらしさを感じ、誇らしく思っていました。実際にこの地に暮らし始めてみると、その生活の面白さや人々の魅力が多く、それを「外から来た者の視点で、島内外の人に伝えたい」という気持ちが本誌を作るきっかけとなりました。

当たり前になっている生活が、島外の人々から見ると、懐かしくもあり、温かくもあり、そういったところで、より「桜島」に興味を持ってもらいたい、と勝手ながら、多くの場所にこの1年お邪魔させてもらい、たくさんの方々にお話を聞くことができました。

そういったご協力のおかげで、島内で本誌を回覧させていただいている他、ネット上でも閲覧できるようにしたことで、なかなか知る機会の少ない地域の暮らしを楽しみに読んでくださる方々もいらっしゃいます。

また、「桜島」の中でも、住んでいる地域以外の場所で日々起きていることは、意外にも島内の方々にも知られていないことも多く、またそれを「外」から、「桜島という島の中」での生活に目を向けてもらえれば、「自然とこの地の魅力が伝わるかな」、そんな想いを日々持ちながら、何気ない生活の記録を今後も少しでも残すことができれば本望です。

この1年間、快くお話を聞かせてくださった方々、また情報を提供くださったり、「次号も楽しみ」とお声がけくださった方々、そして素敵なデザインで、より桜島の魅力の発信を盛り上げてくれる、デザイナーの山下ゆりなさんに心より感謝申し上げます。まだまだ桜島暮らし初心者ではありますが、2年目もどうぞよろしくお願いいたします。

さくらじま地域おこし協力隊 増留 愛香音

バックナンバー公開中！

桜島観光ポータルサイト
「みんなの桜島 さくらじま便り」で検索

